



門 3
號 6679
巻

早稲田 大學 図書館
昭 34.2.3 契
藏 ▲ 書



和末帝

未記ス

神師先生隱筆物具
後葺ナリ

重衣冠

追加ヨリ見聞ヲ記ス
朱書ヲ及テ異ヲ記ス

右當時為_レ公方

文化此ノ事又明治年間差里心得(キ)

装束に重之事

・ 木帝

未記ス

・ 重衣冠

但草ヲ着スルヲ云

・ 衣冠

但武家ニテハ袷衣之也衣冠上ニ是
ノ草ヲ着セズ衣冠之出雲上方ニ見
後年時常之也行ニテハ袷衣之也
有之

一 社祭に氏佛祭も亦ある其支是恒重の別あり
神家法記事に云く重之と云く神意を承りて事未だ發
覺し御衣別或ハ御直衣ヲ 云々云々

御入圓初宮之舞田 社祭之儀ハ重御衣別ガ
名あり也於テ重之事ハ別記ニ有

重御衣尋

一 主御衣別ト云ハ御袍之下に御草ヲ云々云々此扱
御草ト云ハ御袍ヲ重儀發後テ金糸御襟ニ綴シ
御草ニハ襟八九分ト云云云云御袍の首上白



少シ右ニ寄リ御衣上ニ表ニ見立隠汁リ
是程ノ巾ノ糸通御草ニハ御襟ニ條下外カ
内ノ黄能ク一見真結ニク不解紐切ニのりを
少シ付立ニ御袍ニハ御草ニハ御袖ノ折カ
レテ一ノ合ハ御袖ニ取御袖の折邊ハ御草ニ
見え事ニク所終ニ止マシ 雛形ニ有
一 才御衣儀 御草ニハ御衣別ノ時ハ御草ニハ御草ニハ御草ニハ
東武言ヒ建速有ク御草ニハ御草ニハ御草ニハ御草ニハ
第二御衣ニハ白綾御草ニハ御草ニハ御草ニハ御草ニハ
御草ニハ御草ニハ御草ニハ御草ニハ御草ニハ御草ニハ

正位以上白綾
右ノ下白羽二重

九月分三月中御綿入四月朔日分五月官也御給五月官

八月中は薄物御衣冠御束帶之時今也之帷子

法月之更中法之六等之五月官分八月中後之單下着

カ格別暑氣之時白之麻之綾之御襟ヲサシテ法月迄又々

生の單と法月より此の御單ヲサシテ御束帶之時ハ御襟

必二襟入若御下之云々ト云々御束帶と云々御束帶

と云々御束帶と云々御束帶と云々御束帶

第三所掌山眞高之御束帶平く付と云々九之付御

衣長不若御束帶之時九之付御束帶之御束帶

外ハ御束帶御束帶也

白飛沙綾御衣
有二重

三層以下鳥祥洋故
右之上盛子且重九
分之上盛子且重九
天子外不用

才御指御身當時御腰次御用也
白精好
若法月有言

常御代ノ御束帶者ノ御束帶ノ御束帶

牡丹と法月之御束帶ノ御束帶ノ御束帶

法月御束帶ノ御束帶ノ御束帶ノ御束帶

之三重四重也ノ御束帶ノ御束帶ノ御束帶

御束帶ノ御束帶ノ御束帶ノ御束帶

後腰と引上ノ御束帶ノ御束帶ノ御束帶

上ノ御束帶ノ御束帶ノ御束帶ノ御束帶

一 牡丹式とは月... 縮字... 縮不伸...
志の至りのし是を上括上中括上は方有之是は傳
授物之内言格別重キ傳授之由也

私曰る牡丹式三里の急言括並本或は... 縮字... 縮不伸...
縮之く成し三急トし又有又牡丹式折部ツ
上是有古傳よ上括り上は方有之是は傳
授物之内言格別重キ傳授之由也

一 牙五本法とは... 縮字... 縮不伸...

為るとは... 縮字... 縮不伸...
と為るとは... 縮字... 縮不伸...
後引上單と押し紐と... 縮字... 縮不伸...
上下より... 縮字... 縮不伸...
左此処... 縮字... 縮不伸...
後には... 縮字... 縮不伸...
と合は... 縮字... 縮不伸...
皺と押し... 縮字... 縮不伸...
上は... 縮字... 縮不伸...
一 前より... 縮字... 縮不伸...

縮字... 縮不伸...

縮字... 縮不伸...

一 巾袖トの左右共前ト取レ先級三志の角上ト板留ト使
元角袋ト押上テ縫目ト能持所有筋節目ト細
縫目亦池筋の申ハはシ格シ小組志ハ結ル事ナリ
ハ小組志ハ袖内上取テ結ル事ナ有ル又右角ト下必袍内ニ結ル事ナリ
ニ右角ト下ハ分ニ結ル事ナリ

小組袍ニ取付テ法ヲ和ホ雜形辨ル

一 才六寸胸込ト所束中に因テ御首上ト初レ能レ侍
衣役を直ニ一ノ所約込も一東武トにテ一
所約込无シ志ハ通ニテハ所國ニハ
はシらシ事ナリ

一 才七寸法ハ此處ニ所袖ト取レ後ハ其レ袖ト兼テ帶
綴ニ故テ所野大刀ト奉テ為テ帶ト御野知備テ令テ肝草
指ト式ハ後ハ銀ト奉テ緒ニ銀ト在ニ由テ織也のヤワラ

一カキ七子、六ゴ口杯云おと折ふけては月より、鞠尻の方
に佐と上事、言り下より引通し、まは是間、元佐上
半乃上通、は前下廻す、佐前より引し、前後三草
の十を、後へ廻し、又御前より取、は合二重廻し、御前へ
能く先緒、十三結、所胸込、こし、小見、根、居、く、押、合、は
上草、御前、太刀緒掛、左に圖、く、如し。

幕上御用一筋
然紋御用
御用要五合七
文政七春御用
業御用

第八御前御後多々入、後、休、及、御、疑、少、く、は、是、由、必
以、後、有、之、後、後、所、入、後、言、く、御、前、の、名、上、は、長、と、種、に
ま、し、て、文、政、五、年、三、月、朔、日、

御轉任、之、由、右、主、吏、之、無、名、上、一、筋、之、失、渡、之、言、
業、共、右、振、打、多、上、迄、定、不、依、之、其、由、次、と、評、才、懸、て
長、さ、三、寸、半、り、の、針、半、調、五、件、の、り、り、(黒、漆、指、
糸、と、二、寸、半、り、の、通、金、所、後、作、小、結、也、也、) 外、由、り、
二、寸、短、也、上、り、右、懸、り、り、に、て、御、後、と、直、中、へ、先、共、離、形
之、如、し、(區、心、之、方、一、廻、り、) 針、は、何、れ、也、余、は、文、政、五、年、御、前、後、と、言、
舞、余、左、右、三、寸、半、り、首、之、後、と、言、り、
一、相、御、前、は、如、ん、と、一、穴、下、た、右、左、上、下、内、外、へ、懸、り、

一 糸を垂れ、針を頭上へ、針は落好能、是、定、扱、古、在、
 一 甘之糸と左右に、強弱なく、引、志、能、結、り、た、と、登、
 一 所、具、金、と、糸、之、流、は、是、能、何、件、糸、とは、か、ん、と、丸、
 の、例、に、し、よ、相、切、控、之、線、汁、能、糸、の、糸、髪、女、或、人、或、
 一 老、者、と、ハ、ハ、け、冠、と、糸、守、り、と、能、居、り、と、扱、侍、
 一 纒、と、よ、よ、こ、是、ハ、竿、負、り、仕、方、之、纒、半、局、ハ、初、也、に、
 一 記、才、故、爰、略、と、見、合、之、也、

一 一、九、所、懸、緒、と、結、一、重、所、衣、冠、時、ハ、糸、紐、懸、り、
 一 後、所、衣、別、所、衣、結、懸、之、結、糸、ハ、是、之、切、也、所、
 一 直、衣、ハ、何、中、紐、掛、之、尚、時、紐、掛、と、結、り、上、之、紐、目、と、同、

又、緒、糸、は、何、也、と、ハ、不、解、也、紐、主、之、紐、時、ハ、結、目、

一 一、と、結、之、糸、ハ、切、再、所、頭、上、押、入、也、

一 一、十、所、中、結、は、持、扇、一、重、所、衣、冠、時、ハ、末、廣、留、

一 一、懸、所、衣、冠、之、時、ハ、持、扇、所、用、り、

一 一、一、重、之、所、衣、冠、ハ、卑、重、之、所、掛、指、紐、掛、之、所、末、廣、留、

一 一、此、者、同、也、外、ハ、之、後、事、ハ、暑、氣、之、所、ハ、衣、解、也、

一 一、用、に、し、も、不、言、

御直衣

一 一、所、衣、別、に、同、一、所、袍、ハ、結、糸、ハ、糸、重、重、之、後、之、所、叙、也、

一 一、同、其、用、糸、巻、は、太、刀、を、用、用、也、不、言、之、能、直、衣、之、所、也、

一 御太刀御解懸御衣冠之通也

一 御家より御討直衣斗 着御也。為帽子直衣斗云

立直衣帽子と着るは、是は御帽子直衣着御に御剣寛

一 御直衣之時御轅御叙入之事。左に御太刀、右

御持刀入る。御駕籠之時は、御左に御持刀、右

に御叙入る。

一 御束帯は、左に御袴、右に御袴、右に御袴、右に御袴

一 御衣冠之時、御持刀は左に入らや

一 御世衣束帯替目 四月朔日、九月晦日、是は御世衣束

十月朔日より三月晦日止、冬に御世衣束也

御浅水

御柳箱

御清太

他御世衣束は、御世衣束元振更なる

御世衣束時節替目又

御年齢随縁文字替目之記

一 御射御拾六歳春より透顯御用具、其年同月、厚頼御別

所設之事

御系紙御掛紙、花鳥并家名、御入りの御射

御為帽子、御射掛紙、御射掛紙、御射掛紙、御射掛紙

之由扱ヤ。所長致方之取扱あり。

一 所拾五歳迄は、おれおれ木心。是より夏袴裏赤大口卓木と濃紅（おれおれと云ふは、果分よりおれおれにすゝ事申法）

一 所先貴所幼少は、字文鳥禱片（拾三歳分）正致は、段所（拾八九所）三在歳迄は、藤之丸は、段之相も少宛薄く、女と通は、先貴は、段有之と、佛表袴も、錦銀綾と、段丸（拾段）は、段事り、所拾之上中紫、所拾分、浅葵藤丸、所五拾（拾）は、西る海黄、所拾（拾）は、成所七拾（拾）は、白（近き程は、多あり）

一 所拾五歳以下は、夜換目持換目持存と、日月（夜）

一 御烏帽子折左（事）

將軍家法用と、御建枝標、故御之家左折と、法用、又、御建枝左（四谷）折左折法用、諸家右折

一 御内及替目常（法）夜後替目（同）、其内夏生

法卓也、御二重不鍊と、又大暗（即）は、白帷子に

御襟御袖と、卓と掛、御生也、麻法、綿津と、御

一 所襟と、教法衣付法直衣（沙法）及下見（工）と、

生と三襟（空）と、法束帯（必）は、二ッ襟

一 所法束末夏冬替目前（記）と、御品替目（規）

之如

御袍

御大帷子

夏ハ明赤
冬ハ白

御裾

以上之品此外差別あり

一 御衣冠御直衣 練正足袋 法用也

一 御衣冬小浮線綾裏 法着子 京所拾威進薄紫

一 御衣冬 以後法黄 法牡羊 法冬二藍 古所 齡之後

一 縹 穀三重祥 是之通例之定也

一 御衣 袴 法膝 凡法段 以上御袴 法冬 七回 法着 凡法

一 御衣 冬 右 法二藍 縹 三重祥 法段 冬 御直衣

一 法冬 冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬

一 御衣 冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬

一 御衣 冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬

一 御衣 冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬

一 御衣 冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬

一 御衣 冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬

一 御衣 冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬

一 御衣 冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬

一 御衣 冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬

一 御衣 冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬

一 御衣 冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬 法冬

於尾州所裝束較重以別在通

御直垂

一年頭法規式并所祭諸事

御直衣

一 所家御法事

但五箇所祭法事表衣其外一重所裝

御衣冠

朝鮮人未朝之節 御衣冠裝束之節

一 義代御法事

但所祭法事表衣冠之外一重所裝

一 初詣所出國之節 所社祭 所傳各共一重所衣冠

一 所社祭 所傳各共一重所衣冠

御束帶

一 義代御法事表衣

一 所家御法事

一 所州 所祭宮

一 小隨身於所必之 召連之事

一 定光寺始而所祭諸所衣冠 但一重以後年々

九月 御直垂

御束帶

一 所頭御法事 所祭諸所衣冠 四月十日

御直垂

御直垂

一 少子と少法事 五拾四少

七以上 一重少衣料

一 將軍宣下 少轉任紅葉山 共百四少

七以上 少束事

少直書之節調度

一 才一 少是袋 一 才二 少内衣 履

一 才三 少中 一 才四 少括緒

一 才五 少上云 少約紐 一 才六 少烏帽子 少掛緒

一 才七 少懷中物 一 才八 少少刀

才一才三
三少品三少
少贈香三少
少掛徑三少
ナリト三少
才七時所
ヨリは供方掛リ
持袋和巾
色下
少白做之

一 才九 少束廣 履 一 才拾 少糸卷 太刀 籠甲打

一 才拾五 少法背 少柳箱 桐油漆 前少 少小人頭 浪車

一 少拾六 少衣冠 少衣冠

少是袋 為色也袋入

糸計 袋 比少月首 示

和巾包 下白做之

少衣冠 少巾 調度

一 才一 少是袋 一 才二 少内衣 履

一 才三 少中 一 才四 少衣貫 太木拾

一 才五 少草 履 一 才六 少靴 夏

少銀 少袖 綴

一 身七 御上章 白編細 一 身八 御野叙 御上章法
 一 身九 御冠 御鏡 御掛法 一 身拾 御懐中 御掛紙
御掛紙 御上章法

一 身拾 御法衣 御掛名 御掛
御掛名 御掛

一 身拾一 御法衣 御掛名 御掛
御掛名 御掛

御法衣之御掛度

一 身一 御法衣 御掛名 御掛
 一 身二 御法衣 御掛名 御掛
 一 身三 御法衣 御掛名 御掛
 一 身四 御法衣 御掛名 御掛
 一 身五 御法衣 御掛名 御掛
 一 身六 御法衣 御掛名 御掛
 一 身七 御法衣 御掛名 御掛

一 身八 御野叙 御上章法 一 身九 御野叙 御上章法
 一 身拾 御野叙 御上章法 一 身拾一 御野叙 御上章法
 一 身拾二 御野叙 御上章法 一 身拾三 御野叙 御上章法
 一 身拾四 御野叙 御上章法 一 身拾五 御野叙 御上章法

御東幣之御掛度

一 身一 御東幣 御掛名 御掛
 一 身二 御東幣 御掛名 御掛
 一 身三 御東幣 御掛名 御掛
 一 身四 御東幣 御掛名 御掛
 一 身五 御東幣 御掛名 御掛
 一 身六 御東幣 御掛名 御掛
 一 身七 御東幣 御掛名 御掛
 一 身八 御東幣 御掛名 御掛
 一 身九 御東幣 御掛名 御掛
 一 身拾 御東幣 御掛名 御掛

此より上は前記の御掛に
 比し、御上章法に御掛す

一 牙拾 所名帶

所借入所名帯

一 牙拾 所鑲釵

所鑲掛

所鑲掛

一 牙拾二 所結

五方綴

一 牙拾三

所鑲

一 牙十六 所信中切

所信依所信中切

一 牙十六 所易

一 所淺留

一 所信方

一 所信中切都

一 所信後古

一 所信者

一 所束革

一 牙一 所鞆

一 牙二 所肉衣

一 牙三 御帶

一 牙四 所赤

諸つからしむる

牙五 所

前後法腰

右は服

正統下案書
右は上藤丸

腰より十寸挿入結余り長ふにして白と合ふ若くは表袴
ト胸挿入直し束法と表袴と袴ト女口と袴トと
揃てと終前後と腰と下け立所單と存る上單乃
前後若細元扱表袴を引上げあかへて紐を
うりト終をわねる事是又前後を細元所袴を當
紐を括る也す前にて二掛に下り表袴と紐の上にて
三寸と揃に結押込直し表袴裏三里の辺に下り
細き紐付有之仕立有是々若兩ト下之時隙當ては
用之件ト小紐と志つるや、常はと終無
一才六寸帷子大各調白乃 右方扱根所袍とわい

おろし有るるを皆所袍とをまゝ之に袖を合
車と右の方と左とまゝト大帷子前後細元前ト
染と直仕紐にて結つる也、合大帷子と略
と物と格別と氣法の時或は略後成時と
堂上方に用らん、或はあはれとを見別暗早は
上乗は女帷子と目し、故に女單と表を用ゐるの
根なり

一才七寸袍大は才の束法し、上當の時と才六寸起にて
所袍は帷子一所と存る扱は上と垂し、精吟
と掛、高柄は上は左内、方は右下、前と下と存るに

足絆を付し故先此絆を掛け扱表の靖吟を掛く是

と必後衣文取扱候也上の奉乃るる衣取前前後と別言上言に

取絆本法と云ふ於江戸川を穿け奉事すし船中 清後

引上す大帷子と綯取仕前も目一法仕と出當り脚結紐

結ね二重一糸のや一扱巾袍脚前と合ては下前と結

扱に二重と云く仕結紐或と表袴仕腰の内押をこ

と云は上迄のつて縫目真中に結ねは左右仕服下

にて云く一扱新法結者仕法甲の五寸斗上多き 扱仕角造

脚石事と當請紐掛緒仕前取扱志あり如此仕法を

と危き故関氏ハ仕角扱すニテ糸ヲ以テ綴付立左仕角と

くよりして仕角事不見結三の倉家言侍仕角

と云ふ取大仕角より後ろと扱して雛形の仕角内

ニ糸細く鯨ヲ入丈糸ヲ付立仕平結と引通仕角

と云ふ扱も一仕角と綴 扱上より下修りニ雲

凡にて不可仕候は後其當上方の如く角と造る仕

踏も持し脚ハ仕角を事とけ上より仕候も下有る

その後上まで一仕候末ニ記右鯨入より前と仕角乃お

上にして絲長きに仕角丈を定まら仕左右折

込常と角と造ら仕右の方仕角先と前上取

仕左も同様と云は仕左仕候一扱と押二扱仕扱好と

見定は首上初丈の巾衣改車は名帯と出せし名帯
業は得ふて押入内上押入當時にてもは名帯事
端通にては紐と付有と先左右共は前より一重は
にて程終くし扱上より季時九韜より一重細き
弁紐内乃方端より有を引かして上より石
上にて一巻はすして上より一件の細き紐と九韜と
下は是より程下より方と押込と事し是より上より程終る
小紐と付し九韜と左より右に紐と下麻
穴明々兼小紐と付し是より後名帯紐と事し是より
所左右は名帯乃と扱と事しは押込と事しは二重

諸のナリと然し扱は袍乃は腰下に小手紐付
ルは名帯は腰緒に掛て二重三重より一重は付押込
置付紐細き糸と端より付扱離れしは押込事
出定より方の如押入造放押袖も為る九韜事
一第八作物にノボリ縫目と上下共は細く取合は
名帯は紐と巻込ねと事しは是時前より用は故
細く通して不上扱持と事しは扱押袖と縫目と名
帯下の縫目と名帯扱は扱込すは押袖込上
手不見扱系にて二重所縫は二重上三圖はす
一第九作物乃名帯と事しは是時前より用は故

一 草即平指丸輪一輪二種之相也平指と御石
草と表は角分有之草と平指を日分内
は川内平指の内と云うと後表と不見和押込
金と見ると角分と丸を相成平指と云ふ
如くは右三方と云ふと左壁くしめられ
ちりては雲の内と納り先と切捨て細き糸にて
宮汁平指望石解指にして是上は云と云
右復左之は平指と云ふ紙に元付れと御流足に
方には定法あるに紙に裁ち指成り常之六ツ丸
輪と半と云ふ御故草中より紙分を云ふに付は

奉為草紙もは石草と云ふ中工御平指乃真
中代金也

- 一 才拾御紙と云細き糸にて板川と表との付目
にて綴上り御紙を七ツけ横狭にして長之程過
之程と能く人定初二面と云ふは表袴御紙より
之糸を才一紙指上りて他袴好すなり雛形有
一 才拾御紙紙離れ糸指糸にて綴母は袴扇と
云中は紙程に開き掛に今紙紙の要
一方と入綴り方上と成れに上りて御袍と御內衣
之間に御懐中に要り方御左行離形有

飛州位山イキ
サシラネフシラ
カキラネフシラ

才拾二巾笏上

一 巾浅杏

一 巾柳箱

以上

一 巾轆之部

左 巾釵

一 巾駕之部

右 巾方刀

一 巾束帯之部 右 巾方刀 巾釵 巾草 巾襪 左

一 巾衣之部 巾直衣 巾釵 巾草 巾方刀 左

事 右 巾方刀 巾釵 巾草 巾襪 左

追加 是ヨリ 重寶ノ記ナリ

一 明治二年己春ヨリ 巾直密 巾得衣 於

朝廷は向ねしヨリ 先振らるる 奉政 障子 旨

一 同日ヨリ 吉達 湯新 前左府ニ分 紫所 出雲

四月十七日 盛冬 巾直密

大納言 様ノ 賜ル 己未 於

巾家は 紫ノ 公所 出雲 住ル 巾直密

一 巾笠 玉冠 帽子 巾風折 爲 帽子 是又 於

朝廷 同日 振らるる 九 振らるる 由 是 住ル 巾直密

一 東西 京ニ 巾浅杏 八 浅黄 法 巾包 包ニ 於

巾中人 調子 巾浅杏 八 浅黄 法 巾包 包ニ 於

此 巾直密 已 晩冬 巾直密 住ル 巾直密

所得衣之類

一 巾一 巾是袋

一 巾二 巾内衣

一 巾三 巾中

一 巾四 巾是帶又ハ
大和指 巾指袴

一 巾五 巾指衣之冬

一 巾六 巾指事之冬
但共裁不安

一 巾七 巾爲帽子巾是指
巾是巾 巾中組

一 巾八 巾短刀 巾中指
巾指

一 巾九 巾中指 後所存

一 巾十 巾短刀

巾短刀 巾短刀短刀

一 巾十一 巾短刀 巾指掛
巾指掛

一 巾十二 巾短刀 巾指掛
巾指掛

一 巾十三 巾短刀 巾指掛
巾指掛

一 巾十四 巾短刀 巾指掛

一 巾十五 巾短刀 巾指掛
巾指掛

一 巾十六 巾短刀 巾指掛
巾指掛

所得衣之類

一 巾一 巾是袋

一 巾二 巾内衣之冬

一 巾三 巾帶

一 巾四 巾指緒

一 巾五 巾是畫上

一 巾六 同 下

一 巾七 巾胸紐

一 巾八 巾爲帽子巾指掛
巾指掛

一 巾九 巾短刀 巾指掛
巾指掛

一 巾十 巾短刀

巾短刀 巾短刀

一 巾十一 巾短刀 巾指掛
巾指掛

一 巾十二 巾短刀 巾指掛
巾指掛

一 巾十三 巾短刀 巾指掛
巾指掛

一 巾十四 巾短刀 巾指掛
巾指掛

一 巾十五 巾短刀 巾指掛
巾指掛

一 巾十六 巾短刀 巾指掛
巾指掛

一 巾十七 巾短刀 巾指掛
巾指掛

一 巾十八 巾短刀 巾指掛
巾指掛

明治三年午月
中御所御事

勢州御参 官御参

朝之節ハ御常御参無 御月所打子
遊御事 但大官所所中官所所王臣同格

一 御途中途御本復御月不若

一 一官門裏御本拍傘御用之更 但御月傘

一 御差遣御用之御事ハ元九條家所代白

御先御参御事

内御進之御参御指貫以止御推御差遣御事

御参御事御進御事

御参御事御進御事御参御事御進御事

御参御事御進御事御参御事御進御事

御参御事御進御事御参御事御進御事

御参御事御進御事御参御事御進御事

明治三年午月四月於政事堂寺院年次

拜謁之節

從之位御始御所御進御事御進御事

御参御事御進御事御参御事御進御事

明治三年午月三月廿五日味氏御書字

從之位御始御所御進御事御進御事

御参御事

御参御事御進御事御参御事御進御事

御参御事御進御事御参御事御進御事

三位公於御事
御参御事御進御事御参御事御進御事

御参御事御進御事御参御事御進御事

一 其所袍

所比穀織 所之虎白條

一 所襖袴

所表大晒白粉張 所表平絹白 世指黄事

一 所狩衣

所比寄布多目所年齡三應 所表平絹多目重子 所袖露生糸寄子

一 所束帶

是名子在多別使也多事之也 其所裾能多自花田澤之也

一 所口封

一 所烏帽子

所乃日心之具是入目之也

平乃所高月之也 隆重事也 所道之也

或上中下等事 其乃付候上田氏言信一軍仕也

中上

中上

中上

五味標

五味氏 高倉家 明治三十九年

裕衣之夏古実何より出仕品何比より事用元品也今世堂上

方モ破用品もや地色文様も之也 夫之定法也

袴 裕衣 格衣 客衣 元草衣 袴字及字候元草衣下書元草

皮中古ヨリ忌申付草ヲ改 此服神事奉勤一切不用對客又

奉勤之路中勤畧之服之候多分對客用之ヲ以客衣ノ字ニ用之

右比合色好之者ヲ綾致妙具外品ニ裁縫直垂也 服入有

客叙前叙付方直而下同斷三多分指貫ノ上三着有用
書紀心神天皇十三年播磨鹿子水門ノ条万葉集款撰
六帖ノ哥ナ毛三所見有之依何方草衣ハ略衣ニ出為今世堂上者
雜用ニ無之依得共多分用ニ無之依勢三多分祿厚下三客客之
節三着用スル也

一 小袴之更安棧上下、無差別相用也。高位方、其用也。地奈
先差母身、辨三可然一。奴袴ニ又文亦丈ニ差別定法ニ依
一尺小袴ハ文様亦隨好相用也テモ不苦品ニ也。惣テ差貫ホ
六々夏冬ノ無差別。右用依一尺小袴ハ極暑者ホニ單ニテ右用ニ
不苦ヤ單ニ右威依ハ夏ノ比合ハ何ニテ右用可然一也。

答貴棧上下之差別無之。右用也。不苦之位之方ハ純子或ハ
微物之數ハ月命可然哉。裏付可寄好交ハ透精好ニ或ハ穀
織之數可然哉。下輩之者共上ニ可須ニ差貫ニ又ハ生冬練之
差別有之。地文又交冬同様。小袴ハ地ニ又故ニ差別無之。依
一 袴衣小袴ホ右用也。節ハ内省白ニ右用也。地トハ無地ニ之為ノ
多敷ハ右用也。何モ奈ノ節ハ皆白ニ右用可然一也。白ノ
小袴雜用ニ得モハハ右用也。一ニ也。中
答。袴衣ハ右ノ分ニ差貫ニ依袴ニホ右用也。右之通ハ乃着依節ハ内
省白ニ被用也。且又小袴ハ右用也。節ハ内省上ニ氣ニ依付可然哉。
右白雜用者モ同様ニ看スル一。袴衣杯ハ略服ニ之品ニ有之ハ右内

着迄ノ義ハ格別差別ト云々其荒端ノ義及御答儀
 一 堂上方御内端ニ平方白小袖小袴木俵用ト云々
 常ノ御答ハ少クハ此ノ御答ノ字ト云々
 答平方白小袖小袴木俵用ト云々
 無御庄此鳥ノ御答當此少用俵方有云云
 略服ニ御庄儀

御答ノ義ハ格別差別ト云々其荒端ノ義及御答儀
 一 堂上方御内端ニ平方白小袖小袴木俵用ト云々
 常ノ御答ハ少クハ此ノ御答ノ字ト云々
 答平方白小袖小袴木俵用ト云々
 無御庄此鳥ノ御答當此少用俵方有云云
 略服ニ御庄儀







